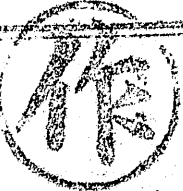


292

人事

六一 受領一三四五 冊子一三〇〇 電〇〇二九九 作 保



● 北東方面總務局  
● 兵隊 總務 局 一六〇〇 奉天總領事官

檢察第〇一一〇四八番

五 五 奉 還 呈

總務司本部ノ林換故ニ最近職情等ニ鑑ミ國務ノ萬益ヲ期スル爲メ茲書ヲ  
當分ノ同第一水陸總務司本部ヲ小書ニ進出セシメ千總司官官ノ際應々  
受ク應務ニ協力セシメ度應如何。

三三九 四二〇(八三一〇四)大務部 海 軍

王勇

...

...

第十課

293

人



六二 陸軍部 陸軍省 陸軍大臣 陸軍省 陸軍省 陸軍省

大 陸軍大臣 三陸隊員 聯合陸軍隊員

航空本部 吳鎮戸

海軍部 〇一一六三七番電 三分ノ一

第四航空隊司令部官

第四航空隊隊員進捗状況報告

マシ及び機材ノ整備

(4) 第六三陸隊軍航空隊機具整備ノ進捗報告並に修理延滞ニ對出用ニ改  
造ノ爲作取用機材トシテハ米ダ一機ヲ供給セラルルニ至ラズ之  
方對策ニ關シ茲本工作廳會社領主等者ト合同研究ノ結果金定數

通八三五 呂二日(日)吳

海軍



第十信隊

ノ工事完了ハ今ノ新七月五日ノ見込今後主務者共ノ他各部ノ御  
盡力ニ依リ概力完成期日ノ繰上ヲ要望シアリ諸般除ハ六月中旬  
全定数完備ノ見込

(四)日向 伊勢未済ノ概観令通廉工事後統運設備備修等ノ新編  
工事及一般修理工事ノ爲五月二十五日以來兵在泊中ナラセ  
口今朝施行可能ノ工事ハ六月二十日迄ニ全額完了ノ見込。

ハ本電其ノ三末着ニ

第十信保

海

電

294

海軍

受借 〇〇六 〇一七

了 〇八四 〇 〇一 〇二 〇三

作

海軍

三 通・二一通・五 通

通・三 通・二 通・一 通

「通報表示」三 二 通

海軍 〇二一六五五番

海軍 〇二一六五五番

海軍 〇二一六五五番

海軍 〇二一六五五番

海軍 〇二一六五五番

海軍 〇二一六五五番

通一七五七 月二日 七八五五 三 通 海 軍

第十信

295



海軍省  
第〇八四四号

海軍省令第一二二二号

海軍省令第一二二二号

海軍省令第一二二二号

海軍省令第一二二二号

海軍省令第一二二二号

海軍省令第一二二二号

海軍省令第一二二二号

海軍省令第一二二二号

海軍省令第一二二二号

海軍省令第一二二二号

海軍

第十信

296

人事

六三 受領一〇二五六 譯丁一三一〇 電〇二三八五 作

● 聯合艦隊

● 第一航空艦隊

● 一機動艦隊 西南方面艦隊 六二航隊  
● 四南運艦隊 二三航隊

機密第〇二二三一〇番電

陸 參謀長

宛 〇P 參謀長

日P 機密第〇一〇二二三一五番電 第一機動部隊機密第二二一一五〇

番電關聯

決戦海面艦地區ニ生起ノ場合ニ備ヘ一機動艦隊ヲ春島方面ニ轉進  
スル場合ノ下算左ノ通

一 轉進部隊及轉進基地第二攻堅集團(在ヤツブ) ワシレ(在ワシレ

陸一六八二 呂ニBノ一三九九五〇一五圖

海 軍(一)

電信 第十隊

飛行機ヲ他基地ニ移動ヲ要ス

ニ、落當リ必要ナル兵力最少限二五〇名及整備要員（機ノ轉送基地ニ分  
割スルハ整備員不足ノ現状ニ於テ不可能）急送用トシ揚輸送機約一  
〇機ヲ使用スル外天候障害等ヲモ考慮シ、驅逐艦一隻直ニヤツブニ控  
置ノ要アリ。

（東通註 本電觀字多シ 再送ノ爲遲延）

電信  
第十號

海

軍

日

297

六

三二

調譯受

了始信

〇〇一  
六六二  
三〇〇  
〇〇三

電

〇〇〇〇〇  
〇〇〇〇〇  
〇〇〇〇〇  
〇〇〇〇〇  
四三二一〇

作

赤塚

保

海上護衛總司令部

字

品

二一〇一三〇

通電先 西部軍夕マ部隊 臺灣軍司令官 海上護衛總司令部 第一

隊海上護衛隊 吳鎮 佐鎮 花蓮港出張所沖繩支部 海上護衛  
第一艦隊司令部 第三艦隊司令部

船參電第五一三九號 其ノ一、二、三、四、五

南方緊急作戦用タル汽帆船松船團(約一七隻)三〇〇〇〇艘(マル

キ船團)一船團約一〇隻(六〇一ヨリ番號ヲ附シアリ)五月末ヨリ

六月十五日頃迄ニ逐次宇品、門司又ハ山カワ港(鹿兒島南方)出發

通一一五三一五八一五三二一五二二一五七

協作

海

軍(一)

電信課  
第十課



六月十五日ヨリ七月十日頃迄ニ「マニラ」ニ到着スル如ク「巽久島」  
 那覇、宮古島、花邊港「サンフェルナンド」經由「マニラ」ニ向ヒ前  
 進スル豫定ニ付護衛修理等ニ關シテハ特別御配慮ヲ得度  
 尙マルキ船團行動ニ關シテハソノ都度司令部船舶部隊ヨリ通報ス。

第十信課

海軍

298

九

天

親展

作要

四 開始〇五五五〇

丁一〇五〇

電〇一七八〇 作・本

未

特

聯合艦隊口・一六〇隊口・一二七號特設輸送艦・二八根口

司令口・津輕・南西方面艦隊口・四南道艦隊口・三南道艦隊口

三司令口・五隊口・二六根口・三根口・一八〇

機密第〇三一四〇一番電

海軍部長

海軍部令第六號

一本艦隊兵一〇〇〇〇名及資材蓄積四日〇六〇〇

〇〇〇〇 (狀況) 八日〇六〇〇頃

(艦隊) 第三六號艦隊 第三七號艦隊

三第一二七號特設輸送艦八五日一三〇〇サン

海軍部令第六〇 呂二日(七八五五)三二

海軍

第十部

本圖ニ合用セヨ

馬鞍路及空襲地點通過地帯日時（速力一二、五節）  
 パシタン島西側  
 迂回四日一〇〇〇分  
 パシタン島西側 五日〇八〇分  
 北緯三度一七分  
 東經一二四度四〇分  
 一三〇分  
 サンギ島南端 六日〇七三〇分  
 北緯三度一七分  
 東經一二九度〇分  
 七日一八〇〇分  
 斗川エハ降爾後發津

第十號

海軍

299

局長

課長

局長

福地

石川

工勇

赤城

赤城

赤城

赤城

赤城

赤城

六三

受領一八四〇

一四一

一四五〇

本

あ 駐作戦部隊

● 三十一通信隊

機密第〇三一四二一番電

通報先 成軍員部隊參謀長

聯合艦隊電合作第一一四號

一五〇日 指揮官柳家國備直率ノ第二攻堅集團ヲ春島方面ニ集中配備

七四

二四日 指揮官ハ速ニ驅逐艦一隻又ハ第一輸送艦ヲ「P.P.V.L」ニ派遣

右移動ニ協力セシムベシ

三四日 指揮官ハ右集中兵力ノ主用基地ヲ後方基地「L.Q.R.L」及「カ

カ」前進基地「R.P.V.L」及「I.W.L」トシテ準備スベシ

三〇六七

三〇六七

海軍

300

親展急

六四

受信二一九五〇五

譯了二二四〇

電〇二〇三八

人事

東京通信隊

機密第〇三一六二三番電

局長

課長

局長

宛 人事局長

有賀(六一〇)熱性症(腸チブスノ疑)全治ニ約一ヶ月ヲ要ス至急

交代方取計ハレ度神川(一四八八)到着セシモ新驅逐隊司令着

大塚(一〇七六)ヲ殘留セシム。

通二八五二

呂(一五七一〇)(三二通)

海軍

第十部課

人

六三

三〇七

四五

〇一四九八

編作



第十信課

長・軍司令部(二方面)二三根より下陸連隊・南西方面艦隊  
三南連隊隊員・四南連隊隊員・威那隊(南方軍)二十五根以下ソロノ島  
島部隊(四就軍)二機動連隊隊員・二十三根以下・二十六根以下、島軍司令部

機密第〇三二〇二五番電

〇〇連令作第一一五號

海作戦一時中止各隊左ニ依リ行動セヨ

一第五艦隊及開接艦隊ハ原隊ニ復歸セヨ

二輸送隊(第二十七艦隊隊員ヲ加フ)ハ一ノ島上ニ入泊後見テ海作

戦ヲ再開セヨ。

三一九〇

三二四

一四四

海

軍

302



人 3

五 受領 〇四〇五 〇一〇九〇〇 〇〇二二五 一

第三十一通信隊

聯合艦隊司令部・南西方面艦隊司令部

（通領表示） 第五海軍航空隊司令部・第三十三航空隊司令部・十六航空隊司令部

機務隊 〇四一八三九番電

南方軍艦司令部

通電先 聯合艦隊 南西方面艦隊 海 大本營

成田電一發電第七九二號成作命甲第六一號發旨

一、第四航空軍司令部ハ海軍部及「ソロロン」被泊中及「ソロロン」以東地

區航行間ニ於ケル直接接觸ニ關シ海軍航空部隊ニ協力スベシ

三、細部ニ關シテハ第四航空軍司令部ト現地海軍航空部隊指揮官及第十

六隊隊司令官トノ間ニ於テ協定スベシ

通三〇九七

日二日（日）日

海軍

第十部課







304

局長

課長

局員

福地

石川

寺井

藤田

高橋

六五 開始 〇三三〇〇

〇二二二〇 〇二二二〇

三三〇

奉在勳賞

南西方面艦隊司令部・一〇海軍司令部・一〇海軍司令部

軍令部一部・軍令部三部

機密第〇五一八〇〇番電

本日一三三〇ヨリ約二時間ニ亘リ敵四發機銃掃射十餘ハシヨリ  
自艦艇撃子行ト市街敷地所ヲ發機掃射甚大ノ見込目下調査中ナルモ  
取敢テ尚メナム河筋コーシチヤン迄氣機掃射下ナシ。

通三六八〇 月一〇日一ノ夕(四七四五)十通 海軍

305



局長



課長

部長

課長

課長

課長

課長

第十信

六五  
開始〇三三〇九

丁〇三三〇

〇二六二六

作

作

聯合艦隊

一機動艦隊・二三號艦

機動第〇五二〇五〇番電

一AP參謀長

宛 GP參謀長

GP機動第〇五一二〇五番電

營方ニ於テハ春總方面ノ實情詳ナラズ且同方面各基地ノ通信力貧弱  
ニシテ遂極撥擲本如意ノ現狀ニ於テハ咄嗟應急ノ處置ニ機ヲ失ス  
ル等直率ノ實ヲ失フノミナラズ決戰ニ於ケル前哨亦最緊要

通三六三三 呂三日(五五八五)五通

海軍

馬六甲

〇 香電ヲ含メ第二攻隊第四八番方計畫通り第三空襲部隊指揮官ノ指  
 揮下ニ入ラシムルコトト致度。

第十師團

海軍

306

入幕局長

海軍局長

海軍少将

海軍中将

第十信

六六 受信一四三五〇八

譯丁一四五五 電〇二八三

專令

緊要親展



一航空艦隊  
二三航空

機密第〇六一二一五番電

發 聯合艦隊參謀長

龍方面戰況ニ鑑ミ爲シ得レバ第一航空艦隊航空參謀一名第二十三航空戰隊司令部へ増援方考慮セラレ度。

通四〇三五

四二日

海軍

307

作戦

六 陸軍第一師団 陸軍第二師団 陸軍第三師団 陸軍第四師団 陸軍第五師団 陸軍第六師団 陸軍第七師団 陸軍第八師団 陸軍第九師団 陸軍第十師団 陸軍第十一師団 陸軍第十二師団 陸軍第十三師団 陸軍第十四師団 陸軍第十五師団 陸軍第十六師団 陸軍第十七師団 陸軍第十八師団 陸軍第十九師団 陸軍第二十師団 陸軍第二十一師団 陸軍第二十二師団 陸軍第二十三師団 陸軍第二十四師団 陸軍第二十五師団 陸軍第二十六師団 陸軍第二十七師団 陸軍第二十八師団 陸軍第二十九師団 陸軍第三十師団 陸軍第三十一師団 陸軍第三十二師団 陸軍第三十三師団 陸軍第三十四師団 陸軍第三十五師団 陸軍第三十六師団 陸軍第三十七師団 陸軍第三十八師団 陸軍第三十九師団 陸軍第四十師団 陸軍第四十一師団 陸軍第四十二師団 陸軍第四十三師団 陸軍第四十四師団 陸軍第四十五師団 陸軍第四十六師団 陸軍第四十七師団 陸軍第四十八師団 陸軍第四十九師団 陸軍第五十師団 陸軍第五十一師団 陸軍第五十二師団 陸軍第五十三師団 陸軍第五十四師団 陸軍第五十五師団 陸軍第五十六師団 陸軍第五十七師団 陸軍第五十八師団 陸軍第五十九師団 陸軍第六十師団 陸軍第六十一師団 陸軍第六十二師団 陸軍第六十三師団 陸軍第六十四師団 陸軍第六十五師団 陸軍第六十六師団 陸軍第六十七師団 陸軍第六十八師団 陸軍第六十九師団 陸軍第七十師団 陸軍第七十一師団 陸軍第七十二師団 陸軍第七十三師団 陸軍第七十四師団 陸軍第七十五師団 陸軍第七十六師団 陸軍第七十七師団 陸軍第七十八師団 陸軍第七十九師団 陸軍第八十師団 陸軍第八十一師団 陸軍第八十二師団 陸軍第八十三師団 陸軍第八十四師団 陸軍第八十五師団 陸軍第八十六師団 陸軍第八十七師団 陸軍第八十八師団 陸軍第八十九師団 陸軍第九十師団 陸軍第九十一師団 陸軍第九十二師団 陸軍第九十三師団 陸軍第九十四師団 陸軍第九十五師団 陸軍第九十六師団 陸軍第九十七師団 陸軍第九十八師団 陸軍第九十九師団 陸軍第一百師団

聯合艦隊

第一艦隊 第二艦隊 第三艦隊 第四艦隊 第五艦隊 第六艦隊 第七艦隊 第八艦隊 第九艦隊 第十艦隊 第十一艦隊 第十二艦隊 第十三艦隊 第十四艦隊 第十五艦隊 第十六艦隊 第十七艦隊 第十八艦隊 第十九艦隊 第二十艦隊 第二十一艦隊 第二十二艦隊 第二十三艦隊 第二十四艦隊 第二十五艦隊 第二十六艦隊 第二十七艦隊 第二十八艦隊 第二十九艦隊 第三十艦隊 第三十一艦隊 第三十二艦隊 第三十三艦隊 第三十四艦隊 第三十五艦隊 第三十六艦隊 第三十七艦隊 第三十八艦隊 第三十九艦隊 第四十艦隊 第四十一艦隊 第四十二艦隊 第四十三艦隊 第四十四艦隊 第四十五艦隊 第四十六艦隊 第四十七艦隊 第四十八艦隊 第四十九艦隊 第五十艦隊 第五十一艦隊 第五十二艦隊 第五十三艦隊 第五十四艦隊 第五十五艦隊 第五十六艦隊 第五十七艦隊 第五十八艦隊 第五十九艦隊 第六十艦隊 第六十一艦隊 第六十二艦隊 第六十三艦隊 第六十四艦隊 第六十五艦隊 第六十六艦隊 第六十七艦隊 第六十八艦隊 第六十九艦隊 第七十艦隊 第七十一艦隊 第七十二艦隊 第七十三艦隊 第七十四艦隊 第七十五艦隊 第七十六艦隊 第七十七艦隊 第七十八艦隊 第七十九艦隊 第八十艦隊 第八十一艦隊 第八十二艦隊 第八十三艦隊 第八十四艦隊 第八十五艦隊 第八十六艦隊 第八十七艦隊 第八十八艦隊 第八十九艦隊 第九十艦隊 第九十一艦隊 第九十二艦隊 第九十三艦隊 第九十四艦隊 第九十五艦隊 第九十六艦隊 第九十七艦隊 第九十八艦隊 第九十九艦隊 第一百艦隊

海軍

第一艦隊

メジノ口島挺身偵察ノ成果ニ鑑ミ

一 敵兵力「ビアク」方面敵兵力ヲ察スルノ好機ニシテ此ノ際暗航兵

力ノ一部「ロ・F」ノ暗航ノ一部ニ及ビ機件戰致敵兵力以外ノ陸海

軍艦艇兵力ヲ能ク隠リ他方面ニ牽制水上偵察ノ夜襲等ト相俟テ戦局

轉換ヲ計ルヲ要ス

二 諸艦艇隊第一集中隊備極キ完了シタル處ニ隨伴戦ニ對シテハ攻撃隊

三 集團ハ既ニ戦闘力ヲ期待シ得ズ第一第二攻撃隊亦機件戰艦各二

陸軍第一師団 陸軍第二師団 陸軍第三師団 陸軍第四師団 陸軍第五師団 陸軍第六師団 陸軍第七師団 陸軍第八師団 陸軍第九師団 陸軍第十師団 陸軍第十一師団 陸軍第十二師団 陸軍第十三師団 陸軍第十四師団 陸軍第十五師団 陸軍第十六師団 陸軍第十七師団 陸軍第十八師団 陸軍第十九師団 陸軍第二十師団 陸軍第二十一師団 陸軍第二十二師団 陸軍第二十三師団 陸軍第二十四師団 陸軍第二十五師団 陸軍第二十六師団 陸軍第二十七師団 陸軍第二十八師団 陸軍第二十九師団 陸軍第三十師団 陸軍第三十一師団 陸軍第三十二師団 陸軍第三十三師団 陸軍第三十四師団 陸軍第三十五師団 陸軍第三十六師団 陸軍第三十七師団 陸軍第三十八師団 陸軍第三十九師団 陸軍第四十師団 陸軍第四十一師団 陸軍第四十二師団 陸軍第四十三師団 陸軍第四十四師団 陸軍第四十五師団 陸軍第四十六師団 陸軍第四十七師団 陸軍第四十八師団 陸軍第四十九師団 陸軍第五十師団 陸軍第五十一師団 陸軍第五十二師団 陸軍第五十三師団 陸軍第五十四師団 陸軍第五十五師団 陸軍第五十六師団 陸軍第五十七師団 陸軍第五十八師団 陸軍第五十九師団 陸軍第六十師団 陸軍第六十一師団 陸軍第六十二師団 陸軍第六十三師団 陸軍第六十四師団 陸軍第六十五師団 陸軍第六十六師団 陸軍第六十七師団 陸軍第六十八師団 陸軍第六十九師団 陸軍第七十師団 陸軍第七十一師団 陸軍第七十二師団 陸軍第七十三師団 陸軍第七十四師団 陸軍第七十五師団 陸軍第七十六師団 陸軍第七十七師団 陸軍第七十八師団 陸軍第七十九師団 陸軍第八十師団 陸軍第八十一師団 陸軍第八十二師団 陸軍第八十三師団 陸軍第八十四師団 陸軍第八十五師団 陸軍第八十六師団 陸軍第八十七師団 陸軍第八十八師団 陸軍第八十九師団 陸軍第九十師団 陸軍第九十一師団 陸軍第九十二師団 陸軍第九十三師団 陸軍第九十四師団 陸軍第九十五師団 陸軍第九十六師団 陸軍第九十七師団 陸軍第九十八師団 陸軍第九十九師団 陸軍第一百師団

海軍 第一艦隊 第二艦隊 第三艦隊 第四艦隊 第五艦隊 第六艦隊 第七艦隊 第八艦隊 第九艦隊 第十艦隊 第十一艦隊 第十二艦隊 第十三艦隊 第十四艦隊 第十五艦隊 第十六艦隊 第十七艦隊 第十八艦隊 第十九艦隊 第二十艦隊 第二十一艦隊 第二十二艦隊 第二十三艦隊 第二十四艦隊 第二十五艦隊 第二十六艦隊 第二十七艦隊 第二十八艦隊 第二十九艦隊 第三十艦隊 第三十一艦隊 第三十二艦隊 第三十三艦隊 第三十四艦隊 第三十五艦隊 第三十六艦隊 第三十七艦隊 第三十八艦隊 第三十九艦隊 第四十艦隊 第四十一艦隊 第四十二艦隊 第四十三艦隊 第四十四艦隊 第四十五艦隊 第四十六艦隊 第四十七艦隊 第四十八艦隊 第四十九艦隊 第五十艦隊 第五十一艦隊 第五十二艦隊 第五十三艦隊 第五十四艦隊 第五十五艦隊 第五十六艦隊 第五十七艦隊 第五十八艦隊 第五十九艦隊 第六十艦隊 第六十一艦隊 第六十二艦隊 第六十三艦隊 第六十四艦隊 第六十五艦隊 第六十六艦隊 第六十七艦隊 第六十八艦隊 第六十九艦隊 第七十艦隊 第七十一艦隊 第七十二艦隊 第七十三艦隊 第七十四艦隊 第七十五艦隊 第七十六艦隊 第七十七艦隊 第七十八艦隊 第七十九艦隊 第八十艦隊 第八十一艦隊 第八十二艦隊 第八十三艦隊 第八十四艦隊 第八十五艦隊 第八十六艦隊 第八十七艦隊 第八十八艦隊 第八十九艦隊 第九十艦隊 第九十一艦隊 第九十二艦隊 第九十三艦隊 第九十四艦隊 第九十五艦隊 第九十六艦隊 第九十七艦隊 第九十八艦隊 第九十九艦隊 第一百艦隊

○後ヲ出テサルベク夜間實獲獲モ又十數艘程度ト推測サル此ノ際一  
 部陸軍ヲ國家存亡ノ敵艦ニ立ツモノトセバ從前ノ八幡部隊ニ一  
 部陸軍艦艇兵力ノ精銳ヲ編成南緯方面ニ臨スル機體置セラルルヲ  
 當ト認ム

電  
十  
信  
線

海  
軍

局長

課長

司員



昭和十一年

親至志  
親展

六七

受信開始一六四〇五

譯丁一七〇五

電〇三三九九

人事

人事局

第一航空艦隊

ペリリユ一航空基地

機密

機密第〇七一〇三〇番電

發 六一航空艦隊司令官

參謀補佐トシテ要務士三名ヲ至急配員方取計ハレ度

(現在少尉一名アルモ病氣ニテ本配員ヲ得次第内地還送ヲ要スル狀況

ナリ)

ヲ左ニ當リ通信ヲ待テ三九配員ノ事完(15/6附) (特許)

通四七九七

呂一〇(一五七一〇)三通

海軍



309

局長 訓長 司馬

親展

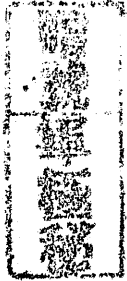
第一八三〇

第一九一〇

第一九三〇

本港

- 海上要衝海口。位 嶺
- 大嶼第一嶼。第一、第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百



第一八三〇

支那直轄地三領

支那直轄地三領

支那直轄地三領

支那直轄地三領

支那直轄地三領

支那直轄地三領

支那直轄地三領

海軍

310

局長

果

局長

六八

〇〇〇  
五五〇  
五二〇  
〇〇七

〇三六八五



第一 航空 隊 中

第三 空 襲 部 隊

大 隊 等 一 部 ・ 第 四 南 洋 艦 隊 部 隊  
海 合 艦 隊 中 ・ 南 西 方 面 艦 隊 中 ・ 一 六 隊 隊

機 密 第 〇 七 一 八 三 一 番 電

本七日現在本機指揮下戦闘機並ニ艦機現狀ハ甲戦十三機(二〇二  
機)一式機中八機(陸軍)一機(陸軍)一機(陸軍)一機(陸軍)一機(陸軍)  
方面ノ急迫セル現況(七日)〇八〇〇機ノ一部第三「ソリド」ニ海進  
入七日九隻ヨリナル艦隊「ピアク」ニ向ヒツツアリ一並ニ當方面ニ  
於ケル四航軍兵力ノ現狀(戦闘機皆無海軍部隊掩護ハ専ラ當隊兵力充  
當)ニ鑑ミ第三攻艦隊兵力ハ直ニ「ピアク」方面作戦ニ悉使用致

通電二〇四

日二日(九五四〇〇)二二通

海

本

慶二付物ニ詮議相成度  
尙當方面實狀取替中ノ處幕儀一名派遣ヲ得度

海

軍

第  
十  
信  
號

311

新設

人事課長

課長

局長

局長

局長

局長

第十課

六八

受信 〇〇七五二〇  
開始 〇〇七四五〇

調了 〇八一〇

電 〇三七〇六  
〇三七〇

至

共

一人

務令事

● 人事局・横人事部・中部太平洋方面監隊口

● 二南遣監隊口・二二根

暗號軍

機密第〇七一九五六番電

二分ノ一二

一 二警氣付高崎艦長、足摺艦長

一 高崎足摺生存者、  
二 警備隊ニ收容

二 警備隊ニ收容

一 高崎生存者（括弧内重傷者）准士官以上一一名（二）下士官兵一四

二名（一九）戰死准士官以上二名下士官兵六名 行方不明准士官以

上二名下士官兵一五名

三 足摺生存者准士官以上一四名下士官兵一六八名（内重傷一名）行方

不明下士官兵一四名

（右）外傷者及附添者若干機シ歸還最近便ニテB Bニ向フ。

通五一九五・五二五八

天B（六一二二、五〇〇）二一通

電

312

人事局長

課長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

六八

〇九二〇

丁一〇五五

〇三三

作

● 聯合艦隊P・ソロン航空隊

機務部〇八〇七〇一

● 第一航空艦隊司令部

通報 聯合艦隊司令部 第三空襲部 機務部

第二十三航空隊 機務部 〇七一九三一

聯合艦隊司令部 〇七二〇三一

海軍航空隊ノ重要機ニ對シテ第二攻撃集團ノ使用ニ關シテハ既開議ノミニ依  
ル協力等ノ逐次消滅ヲ避ケ天候ヲ見定メ極力集中攻撃威力發揮一應ニ  
形勢挽回ヲ策スルノ要アリト認ム。

通五三三五

留日 一六七五五船一五通

海軍

大

六八

受領一六三〇九

丁一六五〇

電〇三八七五

作



第三南遣艦隊

第一航空艦隊P・ワシレ、カウ各航空基地  
大連第一部隊、第四南遣艦隊P・基地、第二六八根

機密第〇八一三二〇番電

三A B 電令作第七三號

第二攻勢海軍指揮官ハ明九日早朝甲級約ニケ艦隊ヲ「ソロン」ニ進出  
海部隊整備ニ任ゼシムベシ。

海五五三四

海二五(九五四〇)二二一通信

海軍

赤城

第五十課



315

親展

受領一三四〇〇

一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇 一五〇〇

本帳

要急

- 二〇五號陸軍
- 聯合艦隊口

九月廿八日 陸軍省

精誠 謹 秘

檢査第〇九〇八五七番

陸 六一號陸軍用會費

賣價第〇九〇一〇〇番陸軍用

在「八月廿五日」七六一號陸軍用會費

陸六一八四

陸四〇(一六五五五五五)五

海 軍

第電十信課録



316

人

六九

電話一三五〇〇

電話一三三五

電話〇四三五七

特 略

# 親急展

- 聯合總隊口
- 古澤本隊隊A

電報號碼

電報號碼〇九一〇二〇番電

發 先進部隊隊隊長

「才」敵關係及目前軍情經本隊上校知事ラモアリト感々ラルヲ以テ  
 敵軍備清水越ハ警分ハ捕及附近時運ニ監視警備セシメラル。

第六一六七 皇軍 (1000九五配) 五通

海 軍

第九



以テスル兵力ノ一舉大量輸送ハ第五戦隊及第十驅逐隊ヲ補足セ  
シメラルルトモ現狀ノ儘ニテハ徒ニ無益ノ犠牲ヲ多クスルノミ  
ニシテ成功ノ見込渺シト認ム

(ロ) 上ロ方面兵力増強ノ爲ニハ至急本格的左ノ準備ヲ整へ手堅キ  
方策ノ下ニ實施ニ移ス必要アリト認ム

- (1) 春島方面ニ對シ進ニ大威空兵力ヲシテ敵前進航空基地ヲ制壓  
攻撃最少限度西行輸送期間ノミニテモ制空權ヲ獲得スルコト
- (2) 陸軍機部隊ノ積極的進出ト共ニ上陸點ニ揚陸用舟艇ノ準備ヲ  
行フコト。

電報復譯註

本電二分ノ一未着

第五  
十  
號

海

軍



⑩ 電報の轉送ハ戰車運搬可能ナル輕便輸送機ヲ使用可及的多數水陸兩  
用戰車ノ輸送ニ充ツルコト。

- 一 東邊駐 本電機字彙ノヲ多ク
- 一 電機機體 本電機ノ一統圖等

海軍

第十信課



ニ、P O O ニ對スル兵力敏達ノ痛トシテ現地揚陸用舟艇ノ利用スベキモ  
 ノ殆ド無キコトニシテ本作取中堅ニ二回ニ亘リ大股九隻曳航ニ依リ  
 殆ド失敗セリ（軍勢ニハ第百四回南洋遠征紀ヨリ通報サレ度）。

一電報観望 本電二分ノニ未着

第百  
 十  
 四  
 回

海  
 軍

切斷セリト稱スル者モアリ然者ノ留一積イテ斷斷火藥庫ヲ燒セリ  
 モノノ顛々大火其時海沈セリ  
 大出聲以奈會難五回何レモ救難セムモ救難聞ララス。

電信課

海

軍



320

六  
一  
●  
受了  
了給  
三三  
三三  
三一  
三三  
三五

電〇四九九三

航作(輸入本)

● 東 通・二十一通

● 二 十 四 通

機密第一〇一三〇三番電

發 第四南遣艦隊司令長官

宛 聯合艦隊、南西方面艦隊各司令長官

通報 海軍次官・軍令部次長

「ヒアタ」地帯観況ノ急變ニ備ヘ該北方面航空基地築城方針左ノ通致

「サガ」地區ハ舊陸機密第一〇九二〇三七番電ノ工事狀況ナルヲ以テ

之ヲ打切リ無飛行場トシテ使用ノ程度ニ止メ從來ノ充當設備隊

通八一六三

四四日(一九五六年五月)廿七通

軍(一)

二四「脱キ」出キ「脱出」ニ〇「脱キ」第二「アソボシ」(カイタト)  
 二三「脱キ」第一「アソボシ」(アハ)ニ夫々脱用ス  
 二「アソボシ」ハ第一ニ集中第二ニ中止  
 其後脱出ノ脱出也

第百七十四

海軍

人事

六  
一〇  
〇九〇〇

丁  
一三三〇

電〇五二〇一

軍戦人  
務力軍  
・一南  
令政

東京通信隊

第二十一通信隊

第二十四通信隊

機密第一〇〇五五番電

發 第四南遣艦隊參謀長

宛 人事局長 南方政務部長

通報 南西方面艦隊參謀長 戦力補給部長

四区機密第一〇一三〇二番電關聯

一、現戰況即應ノ爲アンボシ地区ノ戰鬪態勢一層強化ノ要アル處現二十  
五建アンボシ支部長出本主大佐ハ其ノ本兼職多キニ過キ之ヲ專念困

通六八四六

呂三日口三ヲ四一六一二三五〇廿一通海

軍(一)

第15課

1870

難ニ付ニ〇警司令白水大佐ヲシテ右支部長ヲ兼ホシムルコトニ取計  
ハレ度

頭書ニ〇警備隊ノ二十六特根ヘノ編入換ニ伴ヒ二十五建アンボン支  
部ハ二十六建アンボン支部ニ變更發令方取計ハレ度

三「サガ」地區設警隊ノ編進準備完了セバ同地區築城指揮官大沼一

〇五五ニテ第四南遣艦隊スラバヤ連絡所長ニ二四一設警隊長飯田一

サ一二五八ニテ兼カウ方面ノ防備指揮官ニ配置セシメラル

四第四南遣艦隊機密第〇六二〇三七番電ニ依ル大沼大佐上京ノ件取止  
ラル。

電信課

海軍

322

親展

第一課長

局長

大 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百



● 南滿洲國軍務局  
● 人事局長 一六〇〇〇〇〇〇  
● 電話第一〇二二二〇〇〇

發 第一南滿洲國軍務局  
南滿洲國軍務局長 〇九一三三七  
早朝八八月十日頃 總理公署開始 具込

海軍 第七四三四 月 日 〇五七二二二類一放

海軍

第十信課

323

人事

緊急通告

一 二 緊急通告  
昭和二十一年五月十一日  
閣下〇五三九 閣下〇五一五七 人

● 東京 海軍 部

海軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省

● 陸軍省 陸軍省 (D. H. H. H. H.)

● 陸軍省 陸軍省

一 陸軍省 (二二三三三) 陸軍省 陸軍省 陸軍省 (陸軍省 二二三三三)

陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省

二 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省 (陸軍省 陸軍省 陸軍省)

海軍省 (次二三三三三) 三十一號 海軍

第十號

324

人事

第十一号 陸軍省令第一〇二四号 陸軍省令第一〇二五号 陸軍省令第一〇二六号

昭和二十一年五月十六日 陸軍省令第一〇二四号 第三号

陸軍省令第一〇二四号 第三号 陸軍省令第一〇二五号 第一号 陸軍省令第一〇二六号 第一号  
陸軍省令第一〇二四号 第三号 陸軍省令第一〇二五号 第一号 陸軍省令第一〇二六号 第一号  
陸軍省令第一〇二四号 第三号 陸軍省令第一〇二五号 第一号 陸軍省令第一〇二六号 第一号  
陸軍省令第一〇二四号 第三号 陸軍省令第一〇二五号 第一号 陸軍省令第一〇二六号 第一号  
陸軍省令第一〇二四号 第三号 陸軍省令第一〇二五号 第一号 陸軍省令第一〇二六号 第一号  
陸軍省令第一〇二四号 第三号 陸軍省令第一〇二五号 第一号 陸軍省令第一〇二六号 第一号  
陸軍省令第一〇二四号 第三号 陸軍省令第一〇二五号 第一号 陸軍省令第一〇二六号 第一号  
陸軍省令第一〇二四号 第三号 陸軍省令第一〇二五号 第一号 陸軍省令第一〇二六号 第一号  
陸軍省令第一〇二四号 第三号 陸軍省令第一〇二五号 第一号 陸軍省令第一〇二六号 第一号  
陸軍省令第一〇二四号 第三号 陸軍省令第一〇二五号 第一号 陸軍省令第一〇二六号 第一号  
陸軍省令第一〇二四号 第三号 陸軍省令第一〇二五号 第一号 陸軍省令第一〇二六号 第一号

海軍省令第一〇二四号 第三号 海軍省令第一〇二五号 第一号 海軍省令第一〇二六号 第一号

第電十信課

海軍省 海軍大臣 青木宣純

海軍省 海軍大臣 青木宣純  
海軍省 海軍大臣 青木宣純  
海軍省 海軍大臣 青木宣純  
海軍省 海軍大臣 青木宣純  
海軍省 海軍大臣 青木宣純  
海軍省 海軍大臣 青木宣純  
海軍省 海軍大臣 青木宣純  
海軍省 海軍大臣 青木宣純  
海軍省 海軍大臣 青木宣純  
海軍省 海軍大臣 青木宣純

海

海

電信  
十信  
課課



325

大 海軍

親 密

六 一 一

機密第一五三〇五

機密第一六〇〇〇

機密第一五二四〇

機密第一

夫 次

長 官

機密第六三番

SECRET

夫 次 官 ・ 大 長

光 隆 大 官 ノ 運 轉 ニ 關 シ 美 ノ 後 ヲ メ ラ ノ 一 ヲ 電 話 通 話 ア リ タル 状 況  
左 ノ 如 シ

光 隆 大 官 ハ 危 難 形 勢 ニ シ テ 山 崎 精 佐 官 隨 行 運 轉 機 密 九 日 夕 暮 子 子 着  
ノ 後 定 加 瀬 公 使 及 稻 葉 會 計 官 ハ 出 迎 ノ 儀 若 手 ナ 三 向 方 出 發 セ リ モ 子  
ナ 着 後 出 來 得 レ バ 副 機 密 夕 刻 一 メ ラ ノ 一 ニ 向 ケ 出 發 夜 中 ニ ハ 一 メ ラ ノ  
一 ニ 着 ク モ ノ ト 運 轉 シ ア 山 崎 精 佐 官 ノ 運 轉 機 密 大 長 官 ノ 知 シ

通 七 一 九 四

丁 時 〇

海 軍

高 橋 長 官

石 川

福 嶋

三 野

若 菜

中 島

赤 松

藤 田

第 十 信 課

326

局長  
課長  
局員

福嶋  
寺井

加川  
天井

第十信線

六一二

受信一〇三〇〇  
開始一〇三〇〇

譯了二二〇〇  
電〇五七五二

人臨  
事情

緊急

次次

官長

在ドイツ武官（ベルリン）

發 阿部中將

宛 大臣・總長

A機密第一〇三番電

機密第六五番電

一一一一六〇〇

光延大佐ハ昭和十六年「ローマ」ニ於ケル軍事委員隨員ヲ拜命シ本官ノ輔佐ニ任ゼラレテヨリ茲ニ滿三ヶ年此ノ間古今未曾有ノ重大戦局ニ處シ日伊協同作戰ノ連絡ニ當リ克ク本官輔佐ノ重任ヲ全クセリ特ニ本官伊太利語ヲ能クセザル關係上本官ノ「ムツソリ」ニ總理總軍參謀總長海軍並ニ空軍參謀總長又獨出先官憲ト折衝連絡スルニ當リテハ

通七七九一  
イ四

海軍  
（一）

常ニ本官ニ隨從シ自ラ通譯ノ勞ヲ採ルト共ニ重要適切ナル意見ヲ進言  
 セリ一方本官伊國不在中ハ本官ヲ代理シ軍事委員ノ名ニ於テ活躍セリ  
 然シテ伊「バドリオ」政權敵ニ就リタル後ハ極メテ困難ナル立場ニア  
 リシニ拘ラズ伊國ノ健全ナル再建ニ助力シ帝國トノ作戰協力ニ資セン  
 トシタル努力大イニ見ルベキモノアリタリ右期間中特ニ軍事委員隨員  
 トシテノ顯著ナル功績ヲ摘出スレバ左ノ如シ。

第十信課

海軍

取寄

緊急電報	一九六、一、三	受信	一〇四二
	款	始	一三四〇
	三		(五五五五)
大臣	在獨	武官	(ベルリン)
總長			
機密第一〇九號電	一、二、二		二一、五、三〇
著信者	次官	次長	
受報者	在獨	武官	
伊機密第一〇九號電			
山中	在伊	武官	
第一道報	阿部	中將	
光延大佐	(下官隨行)	六月七日	「カラ」
カライン	在伊	獨	海軍司令部
ノ帰途	六月八日	七〇〇	「アベニシ山」
			版
			伊
			ニ
			ル
			ヤ

(17789)

14B

余田(在免)

海

軍

(双文館納)

(双文館納)

英米軍ト共同主トシテ獨軍、後方交通被  
 壞戰之経事ニシテハトリテ軍、急龍ヲ受テ  
 川官ト共ニ之ト交戰中頭部貫通銃創ヲ  
 受テ危篤絶望小官ニ交戰中斷崖ヲ墜  
 落輕微ニ打撲傷ヲ受テ完無事トシテ六月  
 下月ハラシニ帰着セリ  
 六光延大佐、六月八日附戰死規定(独極密)  
 第六六号勅諭意見ニ參照(特殊進級並ニ  
 教勳)(独極密)第七号勅諭功績果申參照  
 二件具申ス  
 一、日伊軍事協定締結  
 二、甲國海軍並ニ空軍ニ情報判斷戰利ヲ  
 提示教示シ之カ善戰激勵ニ努メ共ニ同

海軍

作戦ノ實効ヲ挙ゲル大ナリ  
 伊國海軍並ニ空軍ノ新訓情報ヲ  
 蒐集シ中央ニ提示シ帝國作戦ノ要  
 スル新大ナリ  
 伊國海軍並ニ空軍ノ新兵器發明者  
 意華ヲ獲得シ帝國新力向上ニ功員スル  
 新大ナリ  
 五ノ首席ヲ任大伊國地幹部並ニ独立  
 先官憲ト密接ニ連絡シ先程進亮ヲ  
 志伊國海軍並ニ空軍ノ健在ナル  
 由健ニ助カシ與フニトテ伊國獨立ヲ  
 鞏固ニシ伊國ト共同作戦ノ實効  
 發揮シ努力ス

(双文館納)

海

張

7670

329

六一二

愛媛三〇〇四〇〇

舞子三三二一五

尾〇五九三八

舞

陸軍

● 第三師團司令部

● 大津第一師・二三師團△・南軍方面司令部

愛媛第一二一六一八番

陸軍 聯合艦隊司令部

海軍 威多隊長

威多第一艦第九〇九號

「マロロ」島ニ對スル艦隊及海軍作戦ニ對スル期待ニ關シテハ貴見ト  
全然同一見解ヲ有シアリ新角野力中ナルモ艦隊ノ全力ヲ懸スル中決  
戦ヲ企圖シツツ海軍作戦ヲ完遂セシムトテ考慮スル機會之ヲ無失ノ能  
ハ艦隊兵力ノ増強可能ナリヤ否ヤニテアリ而シテ之ヲ中隊兵力ノ増

通八四八八 〇四〇四四 (五) 〇〇〇

海軍

第十課

予亦嘗之ニキト不可語ナル實情ニ付直轄合ノ上陸軍團團長ノ位  
 階進又ハ陸軍團團長ニ付二十三號陸軍團長ニ昇進スル者ノ外ニ  
 陸軍團長ノ位ヲ付テ何分ノ考慮ナシ

第十倍課

海軍



329

第八七八八

丁巳

海軍



第一課長

局長



第十信課

六一三

海軍省

第一課

局長

局長



局長

局長

海軍省

海軍省

海軍省

海軍省

Vertical text columns within the main frame, likely containing the main body of the document or a list of items.

通九三五七

呂四B八一八三六五〇一三一通

海

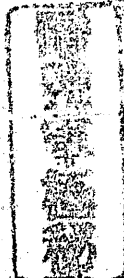
軍(一)

發 第四南遣艦隊參謀長  
 宛 大海參一部長  
 通報 QKF 參謀長

文海機海第一二三〇五六番電關聯

「ソロン」兵力増強概要左ノ通

(4) 九一醫司令西林中佐「ソロン」ニ進出セシムルコトニ措置セラ



海機第一三一七三八番電

- 東京海軍通信隊
- 聯合艦隊中・第三一通信隊

六  
一三

開始三〇三〇九

終了三二二五二



四七六

一合・人事  
通

大  
海  
機

機  
長

海  
機



海  
機



十信  
課

レ到着迄大沼大佐ヲ「ソロン」指揮官ニ任ゼラル

(何現兵力「ソロン」派遣隊「大尉」一騎「以下約六五〇名」ノ外二三七

騎兵増勢員「約一四〇名」

ハ進出子定兵力九一警本隊員「副長以下約三〇〇名」六月下旬「ソ

ロン」着

「ソロン」基地緊急戦備強化方針ニ關シテハ第四南遣艦隊機密第〇

四一五五〇番電稿トシテ六月六日當地海軍空便ニテ發送セリ。

第電  
十信  
課

海軍

33/

第一課長

局長

第一課長

梅田

澤田

手塚

佐藤

森田

石川

高橋

坂田

昭和十六年六月十四日  
陸務

六一三

受領三〇〇四五

譯了二〇五五

置〇四二八

人事令

作戰緊急

第一航空艦隊

大海事一部・第二三、第六一各航戦

機密第一三一八四三番電

機密

聯合艦隊參謀長

決戦ニ於ケル一ハラ一基地ノ重要性ニ鑑ミ第六一航空戦隊幕僚ノ負傷状況ニ應ジ所要幕僚ヲ第二六航空戦隊ヨリ速ニ増援方考慮セラレ度

通九三二七

留B) B) GH

海軍